

SHOW HEY シネマルーム



バイオハザードV リトリビューション

2012年・アメリカ映画

配給/ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント・96分

2012 (平成24) 年9月15日鑑賞

TOHOシネマズ梅田

Data

監督・脚本・製作: ポール・W・S・アンダーソン

出演: ミラ・ジョヴォヴィッチ/シエンナ・ギロリー/ジョーン・ロバーツ/リー・ピンビン/ヨハン・アープ/ケヴィン・デュランド/オデッド・フェール/ボリス・コジョー/ミシェル・ロドリゲス/コリン・サーモン/ジェイソン・アイザックス/アリアーナ・エンジニア/中島美嘉

■■ ショートコメント ■■

◆ 前作は星2つしかつげなかったが、私は過去『パート1』から『パート4』まですべてを観ているため『シネマルーム2』235頁、『シネマルーム6』300頁、『シネマルーム16』423頁参照)、『パート5』についても半分義務感の中3D字幕版で観たが、その内容にはゲンナリ。さらに、すぐ後ろの席に男同士で来ていた若者たちの、上映途中でのアホバカしゃべりにビックリ。一度振り向いて軽く文句を言ったが、全然伝わっていなかったようで、以降はこんな「サル」に何を注意してもダメと完全に諦めることに・・・。

◆ 『パート5』は『パート4』の続編であることはすぐにわかるが、前作を復習していなければすぐについていくのは到底ムリ。導入部におけるひと通りの展開の後、画面はいきなり東京に切り替わるが、そこに出てくる第1感染者の女性(中島美嘉)のパケモノぶり(?)に思わずゾー。今やハリウッド大作もB級、いやそれ以下のC級に落ちぶれたの・・・?

◆ ミラ・ジョヴォヴィッチが完全武装した女兵士アリス・アバーナシーとして戦う姿と、家庭の良き妻、良き母として健気に尽くす姿の両者を演ずるのが本作のミソ(?)だが、その現実離れた映像もいい加減ウンザリ。美人に目のない団塊世代のおじさん唯一の救いは、途中からアリスの仲間として行動することになるエイダ・ウォンに扮するリー・ピンビンの美女ぶり。赤いドレスで美しい右足を見せながらのアクションは大変だろうが、おじさんにはそれくらいの現実離れはOK?

◆ 前作までは私もストーリーを追い、登場人物のキャラやその位置づけを気にしていたが、私の努力も前作まで。本作のクライマックスでは、何かの薬を注射したことによって強大な力をつけたアンブレラ特殊部隊隊員の女性レイン・オカンボ（ミシェル・ロドリゲス）がアリスと対決し、アリスをたたきのめすところまで進むが、アリス最後の反撃は？ そんなアクションではさすがにミラ・ジョヴォヴィッチの冴えは十分だが、ミラ・ジョヴォヴィッチもいよいよ加減『バイオハザード』から卒業し、『ストーン』（10年）のような女性らしい演技（『シネマルーム25』136頁参照）にウエイトを置いた方が、今後のためにベターでは・・・。

2012（平成24）年9月18日記